



福祉

地域で放課後の居場所づくりと不登校支援の推進を!

「私の視点」

児童生徒、高齢者、高校生や大学生の交流は、孤立予防、生きがいや健康増進、社会参画の入り口になると考える。場の提供を行う考えは。

答弁(町長) 多世代が交流を深める場を町が提供していきたい

問 不登校児童生徒への支援について、高齢者の居場所や児童館等の地域資源と連携を強化する考えはあるか。

答(教育長) 不登校児童生徒の状況は多様であるため、一人一人の状況に応じ、丁寧に寄り添って対応する必要がある。児童館等の連携は可能性の一つとして考えられるが、現在は主に校内教育支援センターや教育支援センター「ふれあい」を児童生徒の居場所として、対応している。

問 高齢者の居場所では「児童を受け入れたい」という声もある。子供たちと一緒に畑で野菜を作るなど、地域の方にも関わっていただく考えはあるか。

答(教育長) 適切な支援を行うためには、教員免許等の専門的知識を有する職員の関与が必要であることに変わりはない。しかし、体験活動や作業活動を通じて子供たちの心を育むことは大きな成果と意義をもたらすと考えており、そうした分野での地域参加は有益であると認識している。

問 小中高生から「放課後に集まれる場所が少ない」との声が上がっている。町の対応は。

答(子ども育成課長) 児童館は一般利用が可能。放課後18時まで、学校が休みの日は10時から利用できる。

問 児童生徒の居場所として地域資源の積極的活用や多様な大人とのつながり、構築を国も求めている。放課後の居場所不足について町の認識と、多世代交流の仕組みづくりの方向性はど

うか。

答(町長) 本町では、元気な高齢者がいる一方で子供が減少し、若者が生きづらさを抱える状況も見受けられる。リニューアル予定の老人福祉センターは多世代交流の契機になり得ると考えている。玉村町B&G海洋センターのプール等、世代を超えて利用される施設もあり、町としては交流を深められる環境や場所を提供していきたいと考えている。引きこもりや学校に行きづらい子供たちに対しては、当事者の思いに寄り添い、多様な人々の意見を聞きながら外に出るきっかけをつくる取組を進めていく。

こんな質問もしています

・健康寿命を延ばす町づくりと、介護保険料県内統一化への対応



リニューアルした老人福祉センター内の多目的交流スペース



防災

矢川樋管の安全性は

「私の視点」

矢川樋管周辺フェンス全体にシートが巻かれ、袋が破れた土のうが積まれている状況に不安の声が寄せられている。安全に対策を行うべきだ。

答弁(町長) いくつかの安全な対策を検討中

問 シートや土のうより頑丈な対策などの改善をする考えはないか。

答(町長) 矢川樋管周辺では、令和元年の台風第19号の際に烏川の水位が上昇したことにより、農業用水路等からの雨水が流れづらくなることが要因で内水氾濫が発生した。

周辺地域に床上・床下浸水の被害が発生し、応急的な措置として、矢川樋管周辺のフェンスから排水が逃げないようにするため、フェンスにシートを巻き水路からの排水が溢れないように囲い、排水ポンプ等を用いて堤外へ排出する

ことを計画している。

土のうはそのシートを抑えるために設置したが、設置から6年が経過し、土のう袋も劣化していることを確認している。袋が破れて中身が崩れ始めているものもあり、現状のものを新しい土のうに置き換えるのか、フェンスを強固なコンクリート製に作り替えるのか、別の場所から排水の逃げ道を作るのかなど、いくつかの方策について、都市建設課とも意見を交えて検討していく。

デマンド乗合タクシーたまGOの利便性向上

問 利用時間を変更する考えはないか。

答(町長) 運行時間を延長することで、事業者と協議を進めている。ただし、運行時間を延長すれば追加の費用負担が発生することや、それにより収支率が悪化すれば、群馬県の補助要件を満たさなくなる可能性や一般のタクシー会社の経営に悪影響を及ぼすリスクも考慮しなければならない。そのようなリスクも考慮した上で、現在、9時～16時の運行を8時30分～17時へ延長する案を検討している。

令和8年度からの変更が可能となるよう、協議を進めている。



不安の声が寄せられている矢川樋管周辺に安全対策を

